

安全データシート（混合物用）

1. 製品および会社情報

2. 製品名	COOL MANGO
会社名	kawaiivape
住所	〒614-8072 京都府八幡市八幡長田 23-35
作成者	大須賀秀一
電話番号	090-1440-0306
ホームページ	https://www.kawaiivape.jp/
E-MAIL	caocaovape@gmail.com
推奨用途及び使用上の制限	VAPE 用フレーバーリキッド

3. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入・蒸気）	分類対象外
	急性毒性（吸入・粉塵、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分外
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない	
	特定標的臓器毒性（単回暴露）	分類できない
	特定標的臓器毒性（反復暴露）	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性（急性）	分類できない
	水生環境有害性（慢性）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示またはシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	

【安全対策】	保護メガネ・保護手袋・保護マスクを着用のこと。
【応急措置】	火災時：適切な消火媒体で消火すること。
【保管】	冷暗所に保管する。
【廃棄】	各自治体の規制に従って廃棄すること。

4. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 混合物

物質の特定成分および含有量

物質名	CAS No.	含有量 (%)
グリセリン	56-81-5	60%
プロピレングリコール(香料込み)	57-55-6	40%

※香料の配合割合については企業秘密のため記載できない

5. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師に連絡すること。呼吸が不規則になった場合または停止した場合には、人工呼吸を施すこと。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激があるときは、医師の判断/手当を受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。皮膚の炎症やアレルギー反応が起きた場合には、直ちに医師の診断・手当を受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。顔刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。取り扱った後手を洗うこと。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

予想される急性症状及び遅発性

アレルギー性皮膚反応を起こす可能性がある。発がんのおそれの疑いがある。

症状並びに最も重要な徴候及び症状

応急措置をする者の保護

被災者を救助する場合は、適切な保護具を着用し、活動する。

医師に対する特別な注意事項

情報なし。

6. 火災時の措置

消火剤

水、粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂

使ってはならない消火剤

棒状水を使用してはならない。

特有の危険有害性

不完全燃焼および熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素、各種の炭化水素、アルデヒドおよび煤煙などの、毒性ガスが発生するおそれがある。これらを閉鎖された空間内または高濃度で吸入すると極めて危険であるおそれがある。

特有の消化方法

消火作業は、可能な限り風上から行う。周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。燃焼源の供給を速やかに止める。環境への放出を避け、消火活動からの流去水が配水管等に流れ込まないようにすること。

消火を行う者の保護

消火作業には適切な保護具を着用する。

7. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着しないようにする。着火した場合に備えて、消火用機材を準備する。こぼれた場所は滑りやすいために注意する。多量の場合、人を安全に退避させる。漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用する。漏出した区域を換気すること。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。周辺住民に漏洩の生じたことを通報する等の適切な措置を行う。漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。少量の場合は、吸着剤（おがくず、土、砂、ウエス等）で吸着させて取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。多量の場合は、土砂等（の不燃物）で囲って流出を防止し、スコップまたは吸引機などでドラム等の空容器に回収する。

除去方法

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

8. 取扱い及び保管上の注意

<取扱い>

技術的対策

取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。漏れ、あふれ、飛散のないようにする。取扱い場所には、関係者意外立ち入り禁止する。保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。周辺での高温物、スパーク、火器の使用を禁止する。静電気対策のために、装置、機器等の設置を確実に行う。電気機器類は防爆型（安全構造）のものを用いる。工具は火花防止型のものを用いる。閉めきった場所では十分な換気を確保すること。

注意事項

取扱いは、換気の良い場所で行うか、局所排気下で行い、作業上の換気を十分行う。内圧があるので、栓を少し開いて内圧を除いた後に容器を開き、取扱い都度、容器を密閉する。皮膚、粘膜または着衣に触れたり、目に入らないようにし、取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。加熱したり、摩擦、衝撃を与えない。容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

<保管>

保管条件

容器を密閉して換気の良い、暗所に保管し、直射日光が当たらないように保管する。可燃物を近くに置かないようにし、火気、熱源より遠ざけ、火気に注意する。酸化剤との接触を避ける。静電気対策のために、容器の接地を行う。長期間の保管を避ける。消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。

安全な容器包装材料

9. 暴露防止及び保護措置

設備対策

密閉設備または局所排気装置を備えた設備で取り扱う。取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。静電気に対する予防措置を講ずること。

管理濃度

未設定

許容濃度

日本産業衛生学会（2016年版） 未設定
ACGIH(TLV)（2016年版） TWA 10mg/m³（ミストとして）

保護具

呼吸器の保護具

防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器等

手の保護具

耐溶剤性保護手袋、ゴム手袋

目の保護具

保護眼鏡または防災面

皮膚及び身体の保護具

保護前掛けまたは保護衣、保護長靴

10. 物理的および化学的性質

外観

物理的状态

無色の粘稠な液体である。

におい

マンゴの芳香をもつ。

pH

データなし

融点

データなし

沸点

データなし

引火点

99°C / 210.2 °F（密閉式）

爆発範囲

データなし

蒸気圧

データなし

蒸気密度

データなし

比重

データなし

溶解性

水に易溶。

n-オクタン-1-オール/水分配係数

データなし

自然発火温度

データなし

分解温度

データなし

粘度 データなし

10. 安定性および反応性

安定性 通常の条件下では安定。
 反応性 通常の条件下では安定。
 避けるべき条件 高温、長時間の加熱、着火源
 混触危険物質 クロム酸、塩素酸、過マンガン酸などの強酸化剤
 危険有害な分解生成物 データなし

11. 有害性情報

急性毒性 経口 データなし
 経皮 データなし
 吸入（ガス） データなし
 吸入（蒸気） データなし
 吸入（粉塵、ミスト） データなし
 皮膚腐食性・刺激性 データなし
 眼に対する重篤な損傷・刺激性 データなし
 呼吸器感作性 データなし
 皮膚感作性 データなし
 生殖細胞変異原性 データなし
 発がん性 データなし
 生殖毒性 データなし
 特定標的臓器毒性－単回暴露 データなし
 特定標的臓器毒性－反復暴露 データなし
 吸引性呼吸器有毒性 データなし

12. 環境影響情報

生態毒性 データなし
 残留性・分解性 データなし
 生態蓄積性 データなし
 土壤中の移動性 データなし
 オゾン層への有害性 データなし
 水生環境有害性 データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 「廃棄物の処理及び清掃に関する法」等に従って、処理及び廃棄を行うか、または許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処分する。一般的な廃棄方法としては、蒸気、皮膚などの接触に注意しながら焼却処分を行う。焼却は
 ○焼却炉の火室に噴霧し焼却する。
 ○珪藻土等に吸収させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。
 汚染容器および包装 空容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。内容物、容器は国または都道府県の規制に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国内規定
 国連番号 該当せず
 陸上輸送 消防法、道路法の規定に従う。
 海上輸送 特段の規制なし
 航空輸送 特段の規制なし

国際規制

国連番号	該当せず
容器等級	該当せず
海洋汚染物質	該当せず
注意事項	容器の破損、漏れがないことを確かめ、荷崩れ防止を確実に行う。該当法規（消防法、労働安全衛生法、航空法、船舶安全法）に従い、包装、表示、輸送を行う。

15. 適用法令

消防法	危険物 第4類第3石油類（水溶性）、危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	該当せず
毒物及び劇物取締法	該当せず
PRTR 法	該当せず
船舶安全法	該当せず
航空法	該当せず
海洋汚染防止法	有害液体物質 Z類物質（グリセリン、プロピレングリコール）
水質汚濁防止法	分類できない

16. その他の情報**参考文献**

- ・原料SDS
- ・環境省「海防法施行令別表第1（有害液体物質）及び別表第1の2（有害でない物質）で規定する予定の物質について」（<https://www.env.go.jp/press/files/jp/8383.pdf>）

注意

本データシートは、作成または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱い情報等）に基づき作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、またいかなる保証をなすものでもありません。

また、本データシートに記載の注意事項は、本製品を当社が認めた使用方法によりお使いの場合に適用されるものですので、それ以外の使用方法により扱われる場合は、それに適した安全対策を講じた上でお使い下さい。